

今春より本格販売開始 北のセイ・エイ品種

チモシー新品種の試作状況(2)

ホクセイ (早生品種)

(北海道優良品種、農水省品種登録
試験系統名：S B-T-8710)

ホクエイ (中生品種)

(北海道優良品種、農水省品種登録
試験系統名 S B-T-8704)

雪印種苗㈱ 北海道研究農場

作物研究室 室長 高山光男

はじめに

標記2品種はアメリカにおきまして順調に増殖され、併せて、農水省新品種登録も完了し、今春より本格販売することが可能になりました。

また、全道各地において普及センターの方々、農協、酪農家さんの協力を得て、系統名での（ホクセイ、ホクエイ）試作を行っており、2年目の成績をとりまとめたので、その概要を報告致します。

2系統は系統番号での試作でありましたが、品種登録が終了し、早生チモシー：S B-T-8710はホクセイ、中生チモシー：S B-T-8704はホ

クエイに品種名が決定しました。

ホクオウ、ホクセンに継いでホクセイ、ホクエイとなかなか覚えにくい品種名ですが、ホクセイ（早生）のセイとホクエイ（中生）のエイをつなげて、北のセイ・エイ（精銳）品種と覚えていただければ幸いです。

試作状況

‘96年はチモシーにとって気象条件に恵まれた年であり、全体にマメ科割合が少ない状況でしたが、‘97年は7月の高温のために2番草においてマメ科が優占した圃場もありました。

試作1（清水町A、ホクセイとアルファルファとの混播）

収量成績（乾物）を図1に示しました。アルファルファとの混播であり、単純に比較できませんが、ホクセイの特性が現われているものと思われます。

表1 清水町A、飼料分析値（青草中%）

※1 番草飼料分析値（青草）

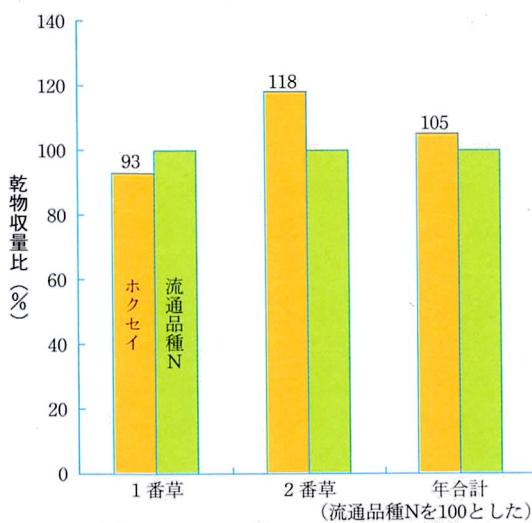


図1 清水町Aチモシー「ホクセイ」乾物収量比

※2 番草飼料分析値（青草 97.07.26）

処理	TDN	CP	ADF	NDF	OCC	Oa	Ob
ホクセイ	58.8	13.6	32.8	57.6	33.3	10.1	48.1
ノサップ	57.2	11.3	36.3	62.8	28.5	12.4	51.3



写真1 裸地が少ないホクセイ（1年目2番草）



写真2 裸地が多いノサップ（1年目2番草）



写真3 裸地が少ないホクセイ（2年目春）

早刈りのため、1番草は生草収量は多収でしたが、乾物収量ではやや低収であり、2番草は再生の良さが発揮され、多収となっております。

飼料分析結果を表1に示しました。ホクセイは難消化性の纖維割合が1、2番草共に少なく、TDN収量では、生草で556 kg/10 a も多収になりました。

また、写真に示しますように1年目の裸地割合の違いが2年目春にも現われており、ホクセイ区は良好なチモシー割合を示しております。

試作2（浦幌町A、ホクセイとリベンデル、マキミドリの混播区とノサップとソーニャ、ホクセイ



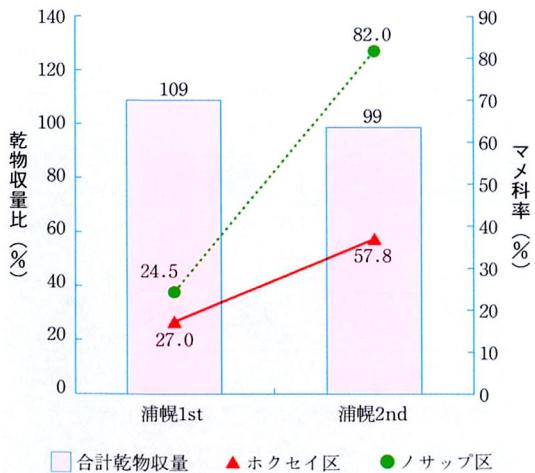
写真4 裸地が多いノサップ（2年目春）

の混播対照区）

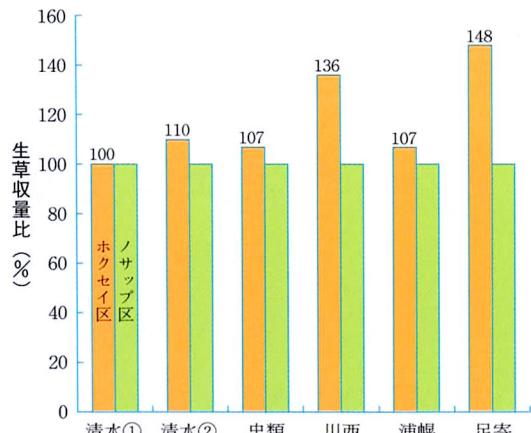
乾物収量とマメ科割合（乾物中%）を図2に示しました。土壤は他の地域と異なり粘土含量の多い土壤であります。収量面は対照品種並みであります。対照区と比較しますと適正なマメ科割合が維持されております。

対照区に混播されているシロクローバが中葉タイプであったために、7月の高温干ばつ時にマメ科割合が極端に多くなり、2番草中のマメ科割合が80%を占め、次年度のチモシー割合の減少が懸念されます。

試作3（清水町B、ホクセイとリベンデルとの混



(乾物収量はノサップ混播区を100とした)
図2 番草別乾物収量比及びマメ科率



*清水②はアルファルファ混播、他はアカクローバ、シロクローバとの混播
(ノサップを100とした)

図4 「ホクセイ」1番草生草収量比

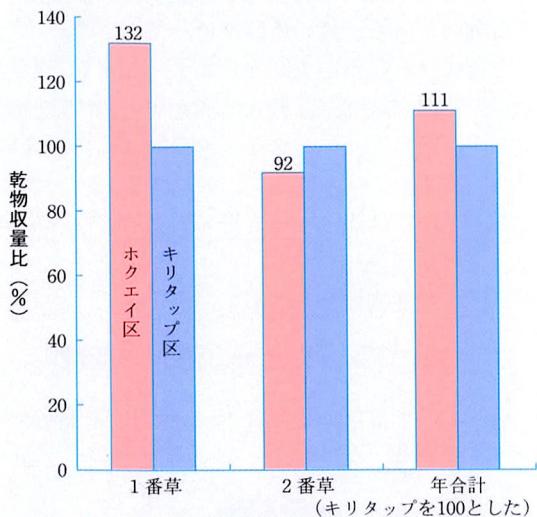
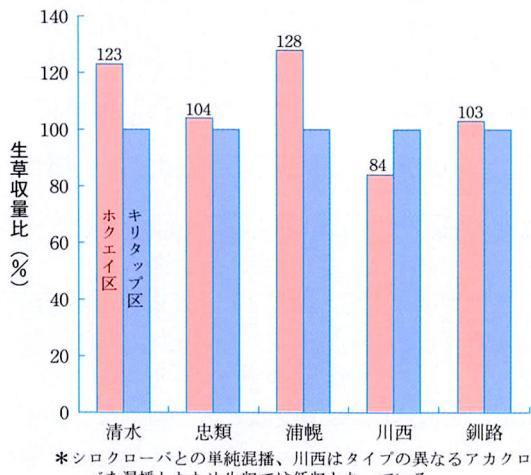


図3 清水町Bチモシー「ホクエイ」番草別乾物収量比
播区)

乾物収量を図3に示しました。地力の影響もあり1番草では多収となりましたが、倒伏が発生し、本来の特徴である、再生の良さと2番草多収の効果は、発揮できませんでした。

ホクエイの耐倒伏性は他の同熟期の品種と比較すると優れています。しかし、耐倒伏性を強化しても中晩生品種のように生育期間の長い品種は、倒伏すると、裸地の問題は解消されないとと思われ、栽培面で回避せざるを得ません。対策として施肥量をやや少な目にし、倒伏が発生したら直ちに収穫する事を徹底すべきでしょう。



*シロクローバとの単純混播、川西はタイプの異なるアカクローバを混播したため生収では低収となっている。
(キリタップを100とした)

図5 「ホクエイ」1番草生草収量比

まとめ

図4にホクセイ、図5にホクエイそれぞれの各地域での1番草生草収量を示しました。

試作圃場毎に多少の増減は認められますが、2年目までにホクセイ、ホクエイに大きな欠点も認められず、特徴も発揮されていることが確認されました。

今春より本格販売になりますが、安心して利用できるものと考えます。

また、試作につきましては3年目まで継続しますので、引き続きご協力のほどお願い致します。